

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月 21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1270902693		
法人名	医療法人社団 寛麗会		
事業所名	グループホーム うららか船橋		
所在地 (電話番号)	〒273-0853 千葉県船橋市金杉9-8-22 (電話) 047-406-7710		
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	〒113-0021 東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成19年8月23日	評価確定日	9月20日

## 【情報提供票より】(19年 8月 17日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 9人, 非常勤 6 人, 常勤換算	5.8人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000 円	その他の経費(月額)	26,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 200 円
	または1日当たり	1,350 円	

### (4) 利用者の概要( 8月 17 日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	10 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82.6 歳	最低 69 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	東船橋病院・渡辺整形外科・寺田医院(耳鼻咽喉科)
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

船橋市の郊外に設置された2階建ての2ユニットのホームです。全体的にゆったりと造られており、周囲が畑で広々として環境に恵まれています。このホームの特徴は、「周囲の相場に比べ料金が割安であること」「利用者を敬い、利用者主体に暮らしている」事です。実際アンケートでも「家庭でいる時と同じように暮らしているので、安心です」「本人の意向を尊重し、自由にさせてくれています」との声が多数寄せられています。職員スタッフのきめ細かな支援のもと、皆さんのびのびと和やかに過ごされているのが印象的です。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回指摘の改善課題の市関係者との関わりについては、市内同業連絡会に積極的に参加して市関係者と交流を図っています。地域とのつきあいは、地域の草取り、夏祭り、自治会総会に参加し、現在では散歩時には地域の方と挨拶を交わし、花や農作物を頂くような関係にまでなり、着実に地域に根ざしてきています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は評価の意義について十分理解し、地域とのつきあい・職員を育てる取り組み等の課題を自己評価し、改善・向上につなげて行こうとしています。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の重要性はよく理解され、開催のため既にも実施要綱を作成しています。目下、開催のため関係者に理解と参加協力を依頼しているところです。早急に開催され関係者の話し合いが実施されることを期待します。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族への報告・連絡は、毎月詳細な報告書と2ヶ月に1回の「うららか通信」で行っています。意見を聞くことについては、家族交流会・面会時・電話連絡等で機会をつくり、職員のミーティング時(月1回・全体会月1回)に家族の意見を取り上げ、反映するようにしています。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>積極的に地域の草取りに参加したり、夏祭りに参加したり、自治会総会に出席したり、地域の人たちに散歩時声をかけたりして、地域に着実に根ざすよう努力されています。又小中学生の実習生を受け入れ、理解と交流を深めるよう努めています。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「皆様の心身症状の緩和・回復を目指します」「皆様のために何ができるか常に考え学び、改善する精神を大切にします」「皆様を敬う気持ちを持ち、皆様と大切な時間を過ごします」「福祉の常識にとらわれず、今後求められる高齢者サービスを追及します」の4点を理念としています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事務室内に掲示し、ミーティング時に確認し合い共有化を図っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	積極的に地域の草取りに参加したり、夏祭りに参加したり、自治会総会に出席したり、地域と交流しお花・農作物を頂いたりしています。	○	今後は、ホームへの理解と協力を頂くために、自治会に参加活動され、ボランティア・実習生の受け入れ等積極的に実施され、時々ホームを地域の方々に開放することを望みます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前々回指摘されたヒヤリハットはリスクマネジメントに、家族へのお便りは「うららか通信」の送付に、災害対策は消防訓練で、改善実施しています。前回の指摘の地域との付き合いは色々努力し取り組んでいますし、市関係者との連携も、業界連絡会に積極的に参加し交流するように努めています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の重要性を認識し、開催に向け実施要綱を作成し、関係者に理解と協力を要請しています。	○	関係者全員の方々の都合がつくの待たないで、5者の内3者以上の方が都合がつけば早急に開催されますことを望みます。そして、その関係者との話し合いから次の段階に進まれますことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内グループホーム連絡会に市関係者が参加しますので、積極的に参加し、その時交流するように努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月詳細な報告書(日常の様子・健康状態等)を、2ヶ月に1回「うららか通信」を家族へ送付して家族から感謝されています。金銭を預かっている方の家族には、領収書添付の上出納帳の写しを送付しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会での意見交換・面会時・電話連絡時等家族から声を聞くよう努めています。又職員のミーティング時(月1回・全体会月1回)に家族の意見を取り上げ、反映するようにしています。	○	家族会に参加したり、時々面会に来られて意見を聞ける家族ばかりでないので、年1回位家族アンケートをとられ家族の意見・要望等を聞き反映されることを望みます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には職員は仕事が固定で、必要時以外の異動は行っていません。只、職員の退職時は、あまり刺激を利用者に与えないために、直前に本人に伝えるようにしています。又、異動・退職は家族へは、「うららか通信」(写真入り)でご連絡しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時職員の募集をしていますが、職員の確保が難しく、育成計画の実施・研修が行えていない現状です。	○	職員の確保のため色々手を打たれているようですが、職員の方々のレベルアップ対策は重要です。研修を受けられる時間をつくるため、現在の業務の見直しを図り、職員に社内研修・社外研修を受けることができる体制作り(マニュアルづくり・育成計画の作成等)を早急に希望します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会に積極的に参加し、情報交換に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り契約前に、見学して頂き、入居前に家庭訪問を行います。本人家族と話し合っ、事前介護計画を作成します。それを職員全員が共有し、他の入居者との橋渡しが出来るように心がけています。入居時は、なじみの物を持参して頂き、訪問等で顔なじみになった職員が「待ってましたよ」と対応するようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で家事（調理、清掃、活け花、植木の水やり）など入居者と共に行い、教えたり、教えて頂いたりしながら、お互いに信頼関係を築けるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式によるアセスメントを実施し、家族や本人からの意向を重視しています。日常生活の中で、お茶や食事の時、入浴や散歩の時等に得られた本人の意向は、ミーティングで出し合い、情報を職員間で共有しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティング時に本人家族を交えて行うようにしています。参加できない家族もいるため密に連絡をとり、家族の意向も反映されるよう心がけています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の評価と6ヶ月に1回のアセスメントを行い、介護計画を作成していますが、入居者に変化のある際は、随時、家族に報告・相談して見直しを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	知人に会いに行きたい、以前行っていたデイサービスに行ってみたい、墓参りをしたいなどの希望があっても、家族が対応出来ないときは車を出して職員が同行するようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけの医療機関へ、受診を希望される方で家族が対応できない時は、車を出し職員が付き添って支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在重度・終末期の利用者は居ませんが、病院、家族との話し合いを設けています。	○	最期までなじみの場所で過ごしたい方が多いと思われます。軽度の方が多く、必要に迫られていない今の時期に、本人・家族の意向をきちんと把握して、このグループホームでは、どこまで出来るのか、基本方針を定めておかれることを希望します。
き					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	おむつ交換時、トイレ誘導時など、入居者が羞恥心を感じることがないように声かけを心がけています。入浴時は介助が必要な場面だけ直接介助し、安全を確保して、ゆっくり入っていただけるようなるべく外で待機するようにしています。職員はミーティングで対応の統一を図っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を時間で決めず、入居者のペースにあった生活を送っていただくようにしています。食事は入居者と職員で作るので大体時間が決まりますが、無理強いはいしません。理・美容院へ出かける人も居ますが、来て頂く人も居ます。各々の希望を大事にしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、調理、配膳、片付けを職員と入居者が話し合いながら行います。ご飯とお汁は、必要量を自分で入れたり入れてもらったりして自分で運ぶ方が多いです。入居者は、自分の得意な事を率先して行っています。職員は目配り、気配りをしながら一緒に行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間の制限はしないようにして、毎日いつでも入浴出来るようにしてあります。出来る限り同姓介助で対応し、必要以上の介助はしないで、入浴を楽しんでもらうようにしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意なことが活かせるように支援しています。庭の花の水撒きは自分の仕事と思っている人、ゴミ出しが自分の仕事と思っている人にはそれをやって頂いています。いけばなの好きな人には、花を生けて頂きます。決して無理強いはしない方針です。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など希望に沿って行っています。裏が住宅地で公園もあるので、散歩は希望によって、一日に2度も出かけることがあります。散歩の途中に季節の花を摘んできて、飾るのも楽しみの一つです。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝9時から夕方までは鍵はかけていません。入居者さんの動きは職員がきちんと把握していますが、万が一のために、玄関にセンサーを設置し、誰かが出入りするときは事務室でチャイムが鳴るようにしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルが作成され、緊急連絡対応表が掲示されています。又消防署直通の電話・スプリンクラー・非常階段等災害対策設備が設置されています。年2回(3月・9月)消防署に依頼し、定期的に防災訓練を実施しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分と食事の摂取量のチェックを行っています。お茶はいつでも自分でも飲めるように、使いやすい目につく場所に、用意してあります。自分で出来ない人や摂取量の少ない人に対しては援助を行い、体調の変化にも注意しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方の憩いの場はゆったりとした空間で、皆さん自由に各自くつろぎ、楽しまれています。施設では、季節にあった掲示・装飾を心がけられ、1人1人に合った声量で話かけています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方々は、入居時に使いなれた家具・ベット・寝具・生活用品・利用者の思いがこもった物(写真・仏壇等)を持ち込み、自宅にいるように過ごしています。		